



年頭にあたって

会長 中川可能作

会員の皆様、あけましておめでとうございます。本年は酉年ということで大空にはばたく鳥のように会の活動も飛躍したいと思います。

今年も例会などで会員講話を中心に互いに切磋琢磨し目標会員50名をめざしましょう。

特に理事及び運営委員においては一人一名以上の新規会員増加を目標に頑張ってください。

金沢龍馬会の皆様方の益々のご清栄と更なるご活躍をご祈念申し上げます。

《第28回全国龍馬ファンの集い報告》

日時：10月8日(土) 9日(日)

会場：アクロス福岡イベントホール

12時30分、朗読劇「船中夜話(九州・博多編)」で開演し主催者挨拶、来賓の方々の挨拶、参加龍馬会の紹介と進行しました。

基調講演は、ロミュラス・ヒルズボロウ氏により、「坂本龍馬とジョン・F・ケネディ：勇気ある2人」と題し、流暢な日本語で、独自の視点から二人の共通点等を語ってくださいました。

現在、ヒルズボロウ氏はサンフランシスコ在住で1980年代半ばから15年にわたり日本に住み明治維新の歴史と文化を研究し英文初の坂本龍馬伝記小説を出版しました。

15時より、明治維新150年平成の薩長土肥連合として結成した「鹿児島・山口・高知・佐賀」4県の知事によるサミットが大会実行委員長のJR九州青柳社長をコーディネーターとして開催されました。平均年齢51歳の若いリーダー達が熱いバトルを繰り広げ、あっという間の時間でした。最後に次期開催地、高知への引き継ぎセレモニーが行われ、16時30分に会は一旦閉会しました。17時半から、同会場にてJR九州の社員による勇壮な演技で交流会が開宴、一年ぶりに各龍馬会会員が再会し美酒を酌み交わしました。

その後、グループに分かれて会場を博多の飲食店に移し「夜楽塾」と題した企画に参加しました。

塾では、龍馬が乙女姉やんへの手紙の中で、日本一の人物と紹介した龍馬の師である「勝海舟」の玄孫「高山みな子氏」の身内ならではの貴重な話を聞くことができました。

今大会、私は3年ぶりの参加でこのところ低下していた龍馬の精神「龍馬力」を満たすことがで

きました。今年、金沢からの参加者は4名と少人数にとどまりました。年一回の全国ファンの集いは決して期待を裏切りません。

来年は大政奉還150年の大会で、盛大かつ有意義な会になると推察されますので、是非、金沢龍馬会からもたくさんの会員で参加しましょう。

「報告：佐藤正樹さん」

【花見会のお知らせ】



現在、下記のいずれかの日程で検

討中です。

4/8(土)、4/15(土)、4/22(土) ??? ?

【会員のつぶやき】

“私と龍馬会”

守山育央



私が龍馬会を始めて知ったのは、当店をご利用頂いた時、ゲストとホストの関係でした。

当初は「真面目な講演の後に酒など飲みながら歴史や時事、その他様々な事柄について語り合う会」との印象を受けました。何か無性に羨ましかったのを今でも覚えています。

その後も縁あって何度目かにご利用頂いた時、会員の方からお声掛け頂いた時に上記の事をふと洩らしてしまいました。

すると幸運にも「君も入会するか」とお誘い頂戴したのですが、その時「歴史は好きだけど特別龍馬に詳しくもなければ、幕末も専門って程でもないんだよなあ」と二の足を踏んでいました。

そんな考えが顔に出ていたのか「大丈夫、龍馬や歴史に詳しくなくても、どちらかが好きだったり、興味があるだけでもいいよ」との後押しを頂いて「これだけ度量の広い会ならば」と入会させて頂く事となりました。

その後は、末席を汚しつつ、他の会員方の講演やお酒・談話を楽しませて頂いています。

元は仕事上の関係からのスタートでしたが、現在は正しく龍馬会々員として参加出来ているかな、と思う今日この頃。また、そう扱って頂ければ幸いです。

まるわかり「龍馬入門講座」 ⑩

これは2010年NHKテレビで放映された大河ドラマ「龍馬伝」が始まる前、坂本龍馬を紹介する為長崎国際観光コンベンション協会が作ったパワーポイントです。今回連載に際し吉田が若干編集しました。(本掲載は金沢龍馬会内部のみです)

22 龍馬と亀山社中は、薩長同盟の周旋をはじめとして、長州藩に武器を用立てたり、ついには海戦に加勢するなど、長州藩の勝利に貢献しましたが、肝心の経営は順風満帆ではありませんでした。

ワイルウェブ号の沈没により、操船する船にも事欠くようになり、資金面で息詰まります。援助していた薩摩藩にしても、薩長同盟が成立してしまえば、亀山社中を抱える意味合いは薄れていきました。

一方、幕府の第二次長州征伐に勝利した長州藩と着々と自前の軍事力・経済力を高める薩摩藩を横目に見ながら、藩政改革を始めたばかりの土佐藩は焦っていました。



こうして薩摩・土佐の両藩の利害は一致し、亀山社中の土佐藩譲渡が決まります。借財については土佐藩が肩代わりし、亀山社中は発展的に解散。人材、内部組織はその

ままに設立されたのが「海援隊」です。ここで土佐藩の参政：後藤象二郎と土佐商会の主任：岩崎弥太郎登場してきます。

後藤は1867年2月下旬、龍馬の剣術修行仲間の溝淵(みぞぶち)広之丞の斡旋で「清風亭」会談が龍馬と後藤の間で行われます。龍馬の馴染みの芸妓：お元を後藤がよんでおくという気の使い方だったとか言われています。こうして土佐藩所属の「海援隊」発足。海から藩を応援するという意味で「海援隊」と名づけます。



同時に龍馬と中岡慎太郎の脱藩も許され、龍馬は「海援隊」の、中岡は「陸援隊」の隊長となります。ゆくゆくは「海援隊」と「陸援隊」を合体させて「翔天隊」の構想があったそうです。海と陸に空、天まで翔けようとした思いはロマンを誘います。「清風亭会談」は、その後の土佐藩が政局の主導権を握り「大政奉還」へと突き進むことになる日本史上重要な会談だったといえます。

「続く」(記：吉田信夫)

《盛会だった北陸三県交流会報告》

日時：9月3日(土)午後1:00～

会場：富山市内 富岩運河環水公園周辺

秋晴れ、9月3日(土)富山にて龍馬会北陸三県大会が行われました。富山龍馬会、越前龍馬会、金沢龍馬会を合わせ30名の参集でした。

富山駅北口から徒歩で富岩運河環水公園へ行き、富岩水上ラインに乗船し富岩運河を下り富山港に面する岩瀬地区に至りました。

ここは北前船で賑わった港町であり昔ながらの北國街道沿いの商家が残っている街並です。

その中で公開されている北前船廻船問屋重要文化財「旧森家住宅」を参観しました。贅沢な建屋造りには驚かされました。

その後最近全国的に注目されているライトレールに乗車し富山駅北口へ戻り親睦会に移りました。富山龍馬会堀沢会長の挨拶、金沢中川会長乾杯音頭、越前前田会長の中締めがありましたが、三龍馬会会員同士の意見交換が活発に行われました。

【新入会員紹介】

100 木谷 玲さん

【編集後記】皆さま、今年もよろしくお願ひします。心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切って参りましょう。これからもご指導ご鞭撻を頂きながら楽しい会報作りを目指したいと思っています。

***** 事務局 *****

金沢龍馬会 会長：中川可能作
事務局長：吉田信夫
080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanaawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>